

CFP（カーボンフットプリント）

算定報告書の例

※緑字部分が記載例です（必要最低限の項目および情報のみを記載していることにご留意ください）

項目	記載内容例
1. 報告年月日	2026年3月31日公開
2. 算定対象期間	算定対象期間：2025年2月-2026年2月 ※ 算定対象期間は、報告年月日のみの記載で代替してもよい
3. 算定の目的	GHG 排出量が多い工程の特定。 なお、他社製品の CFP と比較されることを想定していない
4. 発行社名	グリーンバリューチェーン・プラットフォーム株式会社
5. 対象製品・算定単位	オーガニックコットン T シャツ (L サイズ) 1 着 品番：1234-5678
6. 対象とするライフサイクル	原材料調達、生産、流通・販売、使用、廃棄・リサイクル
7. 参照ルール	ISO14067:2018 カーボンフットプリントガイドライン (経済産業省・環境省)
8. 算定データ	必要なデータ全てについて、取得可能なものは 1 次データの活用を原則とし、取得が困難な場合には、シナリオや 2 次データ (国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 AIST-IDEA Ver.X.X) を使用
9. 対象とした GHG の一覧	使用した排出係数のデータベースで含まれている GHG を対象とした
10. カットオフの基準・対象	①排出量の影響が小さいもの②対象製品に固有化できないもの③インパクトは小さいと推定されるが実態の把握が難しいもの
11. CFP 算定結果	合計 13.8 kg-CO ₂ e 各段階での排出量は、以下の通り <ul style="list-style-type: none">原材料調達：6.4 kg-CO₂e生産：4.7 kg-CO₂e流通・販売：0.7 kg-CO₂e使用：1.2 kg-CO₂e廃棄・リサイクル：0.8 kg-CO₂e
12. 算定における課題や不確実性	サプライチェーン上流のデータ把握が課題。また、使用・輸送・廃棄/リサイクルではシナリオを使用しているため不確実性あり

算定報告書において、任意で記載する情報・項目の例

※緑字部分が追加例です（下記は一例であり、必要に応じて項目および記載内容を追加ください）

項目	記載内容例
算定報告書にて、追加で記載する内容の例	
5. 対象製品・算定単位	対象とする構成要素等について記載してもよい 例) 構成要素は、以下の通り <ul style="list-style-type: none"> ● 製品本体 (オーガニックコットン 100%) ● 洗濯表示タグ ● 吊り札 ● 製品包装用ポリ袋
6. 対象とするライフサイクル	ライフサイクルフロー図や算定対象プロセスを記載してもよい 例) 生産段階のプロセスは、以下の通り <ul style="list-style-type: none"> ● 裁断、縫製、検品、仕上げ、梱包
8. 算定データ	2次データの正当性についても記載してもよい
10. カットオフの基準・対象	カットオフ基準に加え、実際にカットオフ対象としたモノ・プロセスを記載してもよい 例) 具体的には、以下をカットオフの対象とする <ul style="list-style-type: none"> ● ブランドネーム ● 吊り札 ● 卸倉庫・店舗での保管に係るエネルギー カットオフが算定結果に与える影響についても記載してもよい
11. CFP 算定結果	バイオマス由来の GHG 排出量及び除去・吸収量やリサイクル効果による GHG 排出削減量等を記載してもよい。詳しくは CFP ガイドライン P74 を参照
算定報告書にて、追加で記載する項目および内容の例	
13. 今後のモニタリング・再算定の考え方	CFP 算定結果を踏まえた今後の方向性等についても記載してもよい 例) 1次データ比率向上を通じた算定の精緻化に取り組む。各段階にて GHG 削減策を実施し、2035 年までに CFP を現行比 30%削減することを目指す
14. 算定方法	算定時に行った配分方法等についても記載してもよい